



陶片のモザイクで子どもたちが作った  
看板＝三島市民活動センター

# 陶片で看板、皿作り

## ワークショップに15人

GW三島

グラウンドワーク三島(小松幸子理事長)はこのほど、三島市本町の市民活動センター

で「富士山・源兵川アートワークショップ」を開いた。市内外の小学生ら15人が参加して「ちゃんかけオブジェ」作りを楽しんだ。

板は梅花藻の里に設置する。河川保護活動などで市内視察に訪れた台湾関係者らも見学した。

工藤教授は「アートをエコにつなげる取り組みは面白い」と話した。

ふじのくに子ども芸術大学実行委員会との共催。ワークショップは作家を講師に招き、芸術体験を通して水辺の自然の豊かさを考えるのを目的に行った。東京芸術大の工藤晴也教授らが指導した。

参加者は源兵衛川の水辺探索で拾った茶碗んのかげらなどの陶片を使って「三島お魚水族館」(縦20センチ横110センチ)の看板を制作した。川や花火、海を描いたモザイクの皿(直径20センチ)も作った。看